Ⅲ　実践研究

みやざき
共生社会のまなび

１　公民館等モデル

（１）都城市教育委員会生涯学習課

（２）延岡市教育委員会社会教育課

（３）宮崎県青島青少年自然の家
（学校法人宮崎総合学院）

２　大学公開講座

○　宮崎県立看護大学

３　取組推進校

（１）宮崎県立延岡しろやま支援学校

（２）宮崎県立小林こすもす支援学校

みやざき
共生社会のまなび

共生社会を目指した体験教室を開催

実践研究Ⅰ

都城市教育委員会生涯学習課
〈都城市〉

取組の目的

・　普段なかなか外出する機会の少ない障がいのある人にも、人とふれあうきっかけや学びの場を提供することを目的に体験教室を開催し、障がいのある人の生涯学習を支援する。
・　体験教室においては、障がいの有無に関わらず誰でも共に楽しく学ぶことを理念とし、障がい理解や支援者育成につなげ、共生社会の構築を目指す。

取組の経緯

・　南部地区コンソーシアム連携協議会委員からの提案、助言のもと、障がいのある当事者も参加できる講座としてフットパス体験教室（同時に調理体験）とフライングディスク体験教室を開催。中高生や大学生、地元ＪＡ組織もボランティアとして参加。開催前には、障がいについて理解を深めるため、中高生、大学生を対象に事前学習会を実施した。
・　生涯学習の一環として市立図書館で開催した刺しゅうの企画展において、簡単な刺しゅうを学ぶ刺しゅう体験教室を開催。刺しゅうの技法に触れる機会を提供することで、貴重な教養を深めるきっかけとなることを目指した。
・　障がいのある当事者の知識向上を目的に、都城市のボランティア指導者である調理師に講師を依頼し、料理体験教室を開催。

取組内容

（１）　フットパス体験教室・調理体験
　ア　実 施 日　10 月７日（土）
　イ　会　　場　高崎フットパス大牟田せせらぎコース
　　高崎福祉保健センター調理室
　ウ　参加者数
　（ア）フットパス体験教室 64 名
　　指導者　１名
　　当事者 21 名(視覚障がい、知的障がい、精神障がいなど)、
　　ボランティア 33 名（高崎中学校８名、高城高校８名、
　　南九州大学７名、一般 10 名)、
　　その他　９名
　（イ）調理体験（北斗鍋作り）19 名
　　当事者　５名（知的障がい)、
　　ボランティア 14 名(地元ＪＡ組織８名、
　　高崎中学校４名、その他２名）
　エ　その他
　　フットパス体験教室後に、高崎福祉保健センター研修室にて、高崎地区の郷土料理である北斗鍋を参加者で食べながら、交流会を実施

【フットパスの様子】

【一緒に北斗鍋作り】

【交流会の様子】

（２）　フライングディスク体験教室

ア　実 施 日　11 月 19 日（日）

イ　会　　場　宮崎県立都城西高等学校　体育館

ウ　参加者数　96 名

指導者　９名、

当事者 22 名(聴覚障がい、知的障がい、精神障がいなど)

ボランティア 29 名（都城西高校 12 名、

南九州大学 15 名、一般２名)、

その他 36 名

【フライングディスクを楽しむ様子】

（３）　刺しゅう体験教室（マカロンストラップ作り）

ア　実 施 日　２月 10 日（土）

イ　会　　場　市立図書館　ギャラリーA

ウ　参加者数　９名

指導者　１名、

当事者　５名(知的障がい、精神障がいなど)、

その他　３名

【完成品】

【刺しゅうに挑戦中】

（４）　調理体験教室（麻婆豆腐、五目あんかけ焼きそば）

ア　実 施 日　２月 10 日（土）

イ　会　　場　まちなかキッチン(まちなか交流センター内)

ウ　参加者数　９名

指導者　２名、

当事者　３名(知的障がい、精神障がいなど)、

その他　４名

【麻婆豆腐のネギをみじん切り】

取組の成果と課題

(1)　成果

・　笑顔と共に当事者から「楽しかった。」「また参加したい。」「良い経験をした。」といった声が多く聞かれたことから、障がい者の生涯学習の一助を担うことができた。

・　ボランティアとして参加した学生からは、「障がい者と接することに不安があったが、普通に会話がはずみ楽しかった。」「障がい者のことを知る良い機会でした。」との感想が聞かれたことから、支援者の障がい理解を深めることができた。

(2)　課題

・　参加募集する際に、各体験教室の内容を具体的な内容までわかりやすく周知し、安心して参加できるよう工夫する必要がある。

・　ボランティアがスムーズに参加し協力できるように、事前に関係機関との連携を図る必要がある。

今後にむけて

（１）　障がいの有無に関わらず誰でも参加できる体験教室を継続する。

（２）　障がい者の生涯学習講座利用促進を図るため、既存の生涯学習講座パンフレットなどを整備する。

（３）　事業を円滑に運用するための協力体制を検討する。

都城市教育委員会生涯学習課

TEL:0986-23-9545　FAX:0986-25-1043

関係機関の協力を得ながら まず、やってみる！

実践研究２

延岡市教育委員会社会教育課

〈延岡市〉

取組の目的

学校卒業後の障がいのある人の生涯にわたる学びの充実を通して「誰もが、共に学び、生きる共生社会の実現」を図るため地域の関係機関と連携して生涯学習支援体制の構築を図る。

取組の経緯

学校教育においては特別支援教育が充実し多様な展開がなされているが、卒業後に安心して学ぶ機会、繋がりの場がないという当事者や関係機関からの意見も踏まえ、障がい福祉課や支援学校など関係機関と連携を図りながら、障がい者の学びの機会を創出することとした。

取組内容

生涯学習講座「かねのね」の実施（3 回） 会場：県立延岡しろやま支援学校

（1） 第 1 回講座

ア 実施日 9 月 23 日（土）※プレ 8 月 28 日

イ 実施時間 9：50－12：10

ウ 内容

講座 1 多肉のデコパージュ 講師 宇田津 類子 氏

講座 2 みんなで楽しくカラダを動かそう！ 講師 長野 葉子 氏

エ 参加者

講座 1 11 名（11 名申込）、講座 2 9 名（12 名申込）

オ 申込方法

講座 1 フォーム 11 名（1 名欠席、1 名当日申込）

講座 2 フォーム 11 名、電話 1 名（4 名欠席、1 名当日申込）

【第 1 回講座（多肉のデコパージュ）の様子】

カ スタッフ

16 名 内訳：コンソーシアム委員 10 名、支援学校職員 2 名、大学生 7 名、ボランティア団体 1 名、社会教育課 3 名

キ 第 2 回講座に向けて

○ 広い会場（体育館）にブースを設け、好きな講座に参加する。

○ 各自昼食の準備をし、1 日の日程で講座を実施する。

○ 事前準備のために、申込時に障がいの種類をたずねる。

○ 紙媒体でアンケートを取り、講座の最後に記入の時間を設ける。

（2） 第 2 回講座

ア 実施日 11 月 23 日（木・祝）

イ 実施時間 10：00－15：30

ウ 内容

講座 1 楽しい運動 講師 黒田 雄三 氏

講座 2 フラワーアレンジ 講師 岡田 博美 氏

講座 3 防災 講師 地域づくりサークルわかあゆ

講座 4 メイク 講師 M&かおり 氏

講座 5 中止

講座 6 ダンス 講師 日髙 祥一 氏

講座 7 クリスマスの飾り 講師 社会教育課職員

【第 2 回講座（メイク）の様子】

エ 参加者

講座 1 25 名（24 名申込）、講座 2 19 名（16 名申込）、

講座 3 31 名（15 名申込）、講座 4 8 名（ 7 家族申込）、

【第 2 回講座の様子】

講座５　中止、講座６　19 名（14 名申込）、講座７　22 名（19 名申込）

オ　申込者の障がい種

知的 30 名、身体 10 名、発達７名、精神２名、その他１名

カ　スタッフ

27 名　内訳：コンソーシアム委員８名、支援学校職員９名、大学生２名、高校生１名、ボランティア団体２名、市職員５名

キ　第３回講座に向けて

○　チラシ配付、夕刊デイリー掲載に加え、市ＨＰにも掲載し広報を行う。

○　スタッフの事前の打ち合わせの時間を確保する。

（３）　第３回講座

ア　実施日　１月 14 日（日）

イ　実施時間　9:30－12:00

ウ　内容

講座１　バスボム　講師　渡邉 香 氏

講座２　ZUMBA ダンス　講師　Ayumi 氏

体験　ハンドマッサージ

講師　Gift～優しさと笑顔あふれるサロン～の皆さん

【第３回講座（ZUMBA ダンス）の様子】

エ　参加者　講座１　12 名（16 名申込）、講座２　14 名（19 名申込）、体験 14 名（当日申込）

オ　申込者の障がい種　知的 13 名、身体３名、発達１名、精神１名

カ　スタッフ

20 名　内訳：コンソーシアム委員６名、支援学校職員６名、大学生４名、ボランティア団体２名、市職員２名

取組の成果と課題

（１）　成果

・　参加者アンケートでは、全ての回答者より「少し楽しかった」、「楽しかった」との回答を得た。また、「余暇のすごし方が増えるので、続けて欲しい。」「家と施設の往復に彩りをつけてあげたいので継続して欲しい。」「運動が得意な方、手先の作業が得意な方など、それぞれの特性に合わせた講座が準備されていて良かった。」等の感想があり、学校卒業後の学びの場の設定としては目的を果たすことができた。

（２）　課題

・　ボランティアスタッフが対応で戸惑うことがあったので、事前打ち合わせは必要である。

・　今年度は「場の設定」を目標とした事業初年度であったため、市公式 SNS 等での広報を行わなかったが、令和６年度は障がいの有無に関わらず、幅広い年齢層の参加を想定した「誰もが学ぶ場の設定」を目標とするため、障がい者とのバランスを考えつつ参加者を増やす手立てを考える必要がある。

今後に向けて

（１）　事業の継続実施

（２）　障がいの有無に関わらず、誰もが学ぶ場の設定

・　実施曜日の検討と早めの日程決定

・　チラシ、報道投げ込みに加え、市ＳＮＳでの情報発信

（３）　ボランティアスタッフに対する事前説明の内容検討と時間の確保

延岡市教育委員会社会教育課

TEL:0982－22－7032　FAX:0982－23－6874

障がいの特性の理解と実践

実践研究３

宮崎県青島青少年自然の家
〈宮崎市〉

取組の目的

- 様々な人が利用できる施設を目指す
- 障がいに対する専門的な知識を理解した上で、これまでの対応を見直す

取組の経緯

誰もが利用しやすい施設を目指す変革の一つとして、障がいのある人にも本施設での研修を通して、学びをより深めてもらうための条件整備が必要である。そこで当推進事業と連携することにより、本施設の研修プログラムを総合的に見直し、誰でも分かりやすい説明や活動、振り返り等ができるように、関係プログラムを工夫・改善し、職員の意識や知識の向上を図る上で大きな弾みとなることが期待されるため、取り組むこととした。

取組内容

（１） 障がい理解研修

講義「発達障がいの特性の理解と合理的配慮の提供について」

県立みなみのかぜ支援学校の梶山由香チーフコーディネーターが講師となり、上記のテーマで講義を実施した。発達障がいの特性の理解では、知的障がい、注意欠如・多動症、自閉スペクトラム症の特性と環境面での配慮について具体例を提示しながらの説明があった。合理的配慮の提供については、その背景にある障がい者差別解消法と提供のプロセス等の紹介があった。

【研修の様子】

（２） みなみのかぜ支援学校との取組

ア 小学部５年生

（ア）打ち合わせ

事前にプログラムの内容を伝え、児童の実態等からプログラムの変更や説明時の配慮等について児童の好きなことや得意なことを加味し、変更を加えた。

（イ）下見

活動場所を示して、当日の活動や全体の流れ等を具体的に打ち合わせた。

【支援の様子】

（ウ）当日

活動の流れを説明したり、それを視覚的に提示したりした。また宝探しで探すものを体物で提示した。スズランテープを使って活動場所が分かりやすいように区画した。

イ 中学部２年生

（ア）打ち合わせ

活動内容や難易度等を再考し、生徒が理解できるよう工夫した。

（イ）下見

活動場所の確認や移動および活動の実施方法についての検討を行った。

【活動の様子１】

（ウ）顔合わせ

スムーズな運営につながるように、担当と副担当で複数回学校へ出向き生徒と顔合わせを行った。

【活動の様子 2】

（エ）当日

フォトアドベンチャーと木崎浜散策を行った。フォトアドベンチャーは実際に学校内で実施していた内容と全く同じ流れにすることで、生徒たちの困り感をなくすよう努めた。場所が違ったが、活動の内容について混乱することなくスムーズに実施することができた。

木崎浜散策についても、松林内でまつぼっくり等を拾ったり、海で貝殻や流木を拾ったりするなど、楽しんでいる様子が見られた。

（３） 香々地青少年の家および就労継続Ｂ型支援事業所ワークステーションドルフィンの視察

大分県立香々地青少年の家の視察では、令和４年度および令和５年度の大分県での同事業の説明を受けた。大分県は障がい者を対象としてはいるものの、同じ場で同じ活動をするのではなく、様々な社会教育施設を障がい者施設に認知してもらい、利用促進に重きを置いていた。令和４年度の利用団体アンケートを受けて、活動は選択制にすることで自己決定を促し、利用者の体力等を考えて移動を減らし、ゆとりのあるスケジュールにしていた。活動においては、活動ごとに職員を変えることでさまざまな人と触れ合える機会を用意していた。バリアフリーの面では、段差等への対応に難しいところがあったようである。令和6年度に向けては、利用者に新しい体験や発見をしてもらうことで、自己肯定感を高めることができるものにしていくとのことだった。ドルフィンの視察では、障がい者施設の実際を見ることができたとともに、余暇活動の大切さについて理解することができた。

取組の成果と課題

（1） 成果

・ 研修では、本施設ですでに行われている支援が、障がいの特性への配慮の側面から意味付けができ、大変勉強になった。

・ 実践では、事前の打ち合わせや視察等が大切であり、さらに知識に裏打ちされた臨機応変な対応が必要であることが理解できた。

・ 視察をとおして、宮崎県の取組や考えを客観的に見たことで明確になった。

（2） 課題

・ 事前の打ち合わせや理論などを理解し対応する事が大切であるため、今後は障がい特性の理解や支援方法をその背景理論からしっかりと理解していくことでよりよい支援に結び付けることが必要である。また、様々な方に利用してもらえるように、課題を見つけ一つ一つ解決していく必要がある。

今後にむけて

（1） ソフト面

・ 研修を受けたが、そこで得た知識を実際に使うことができなかった職員がいるため、今後も実践と研修を繰り返していきたい。

（2） ハード面

・ 本施設は視覚障がいや聴覚障がい、肢体不自由に対するバリアフリーがまだ十分でないため、今後改善を図っていきたい。

宮崎県青島青少年自然の家

https://www.aoshima-msgsi.jp/

大学公開講座　ひむかアカデミア　in　看護大

実践研究４

宮崎県立看護大学　看護研究・研修センター
〈宮崎市〉

取組の目的

・　看護大学が「学び」と「出会い」を生む場となり、障がいの有無にかかわらず、誰もがその人らしく健康に暮らせる地域社会の実現を目指す。
・　看護大学の施設や設備、人的資源を活用し、看護学生や教員がパートナーとなり、参加者それぞれの個性や持てる力を確かめ、高め合いながら参加者相互の理解を深め、豊かな成長の機会とする。

取組の経緯

本学では、視覚・聴覚障がい者を対象にした公開講座がなかったことから、視覚・聴覚障がい者が参加できる講座とした。宮崎県生涯学習課、宮崎県立視覚障がい者センター、宮崎市視覚障がい者福祉会、宮崎県聴覚障がい者協会、宮崎市聴覚障がい者協会の協力を得、学生、教職員、当事者から構成した企画委員会を設置した。当事者と話し合いを進め、講座内容や展開方法を決定・実行した。学生企画のプログラムは、本学学生サークル４団体が中心となり進めた。

取組内容

（１）　企画委員会

ア　第１回企画委員会　（９月下旬）

県生涯学習課からの事業趣旨説明および看護研究･研修センターから目的、組織体制、スケジュール等の説明を行った。障がい特性や参加者の希望をふまえた企画となるように意見交換を行い、各セクションごとの実施計画案作成に着手した。

【第１回 企画委員会】

イ　第２回企画委員会　（10 月中旬）

企画意図を明確にし、合理的配慮を考え、誰もが楽しく参加できる計画を練った。学生は、課外時間に、企画委員の視覚障がい者が主催する「スマホ教室」の見学や、聴覚障がい者の話を聞くなど情報収集を行った。また、情報の伝達方法や情報保障、移動や座席・物品配置の配慮などを検討した。

ウ　第３回企画委員会　（開催当日）

（ア）午前中に、留意点、物品配置、参加者の案内手順等の最終確認を行った。また、当日のみ参加の実行委員への説明内容や役割などを確認した。

（イ）開会式・閉会式で全体への情報伝達が必要な場合は、手話通訳士に通訳を依頼した。

（２）　実施内容

ア　開 催 日　令和５年 10 月 28 日（土）　午後１時～午後４時

イ　開催場所　宮崎県立看護大学

ウ　参加者数　17 名（視覚障がい者・支援者６、聴覚障がい者・支援者 11）

エ　スタッフ　企画委員 15 名(視覚障がい者１、聴覚障がい者１、職員５、学生７、県担当１）
実行委員 22 名（職員４、学生１８）

【初めての骨密度測定】

（３）　主なプログラムと合理的配慮の一例

ア　大学ツアー（手話サークル・ボランティアサークル等）

（ア）参加者と学生でグループを作り、学内を案内した。人体模型展示、自助具展示、新生児模型による心音聴取や抱っこ体験、骨密度測定を行った。各コーナーは学生が担当した。
（イ）聴覚障がい者には手話サークル学生と手話通訳者が同伴した。視覚障がい者には、ガイドヘルパーとボランティアサークル学生が同伴した。
（ウ）わかり易い文字やサイン、手話、身振りなどで、情報を伝えた。

【お茶を楽しむ】

イ　いきいき茶屋：茶道体験（茶道部）
（ア）作法を説明し、茶道部員が参加者と一緒に御点前体験を行った。
（イ）初体験でも楽しい時間となるように、詳細な作法は除外し学生と参加者相互の交流を深めることを優先とした。

ウ　和太鼓の演奏と体験（和太鼓サークル）
（ア）全員が参加でき、最後のプログラムでの一体感が高まる展開とした。
（イ）聴覚障がい者が、和太鼓の振動を楽しめるように大型の風船を用いた。聴覚障がい者が、太鼓音や位置関係に不安を抱かないよう担当学生が、細やかに案内した。

【和太鼓の振動を体感】

【参加者全員で太鼓体験】

【楽しく、心豊かな時間を共有】

取組の成果と課題

（１）　成果
・　学生・教職員が目的を意識した取組を行うことができた。企画段階から障がい当事者と協働したことで、障がい特性や日常生活、希望などを知り、皆で楽しむための工夫や調整に繋げることができた。参加者・スタッフの笑顔が溢れ、当事者の「元気になれた」という発言から、誰もがやりたいことが楽しめることの大切さと意義を確認できた。
・　日頃、聴覚、視覚の障がい者の相互交流がなく、今回の講座が関係づくりの機会となった。
・　和太鼓は、風船が「低音や小さな音を感じる」ことに効果的であり、当事者も企画側も驚きや喜びを感じた。一体感を目指した全員参加型の構成により、豊かな時間と心を共有できた。
・　学生は、看護の学修やコロナ禍以降、停滞気味であったサークル活動の成果を発揮でき、自己効力感や学修意欲の向上につながった。試行錯誤であったが、満足度の高い経験となった。
・　看護大学ならではの資源を有効に活用できた。

（２）　課題
・　学生主体の場合、学事日程を考慮し、早めの着手と余裕をあるスケジュールが必要である。
・　体験型の場合、個々への十分な配慮のために、関係団体との協働及び人員確保が必要である。

今後にむけて

大学が行う住民対象の公開講座等では、なお一層、「共生社会」の視点を持ち取組む必要がある。今回の学生の経験は、教育的にも大変意義深く、今後も課外活動の活性化を図っていく。今回の取組を広く広報し、その意義を発信・共有することで、共生社会を考える一助とする。

宮崎県立看護大学看護研究･研修センター
E-mail:center@mpu.ac.jp　TEL:0985－59－7833

3　取組推進校

（１）宮崎県立延岡しろやま支援学校

令和５年度　共に学び、生きる共生社会コンファレンス

ひなたのつどい「取組推進校発表」

宮崎県立延岡しろやま支援学校
聴覚障がい教育部門

教育目標

学校の教育目標
心豊かでたくましく地域社会で生きぬく力の育成

めざす学校像
- 笑顔があふれ、自立心に満ちた学校
- 個の伸長を図り、専門性を追求する学校
- 地域とともに可能性を高め合う学校

めざす幼児児童生徒像
- 自ら考え、自分らしく表現する子供
- 学んだことを生かし、実践する子供
- 夢をもち、自ら挑戦する子供

めざす教師像
- 子供に寄り添い、ともに夢を拓く教師
- 専門性を高め、確かに実践する教師
- 学校や地域社会に貢献する教師

学校の特色

延岡しろやま支援学校

聴覚障がい教育部門（ととろ部門）	肢体不自由教育部門（わかあゆ部門）	知的障がい教育部門（たいよう部門）
【設置学部】	【設置学部】	【設置学部】
幼稚部	小学部	小学部
小学部	中学部	中学部
中学部	高等部	高等部

幼児児童生徒数（部門別）

令和５年１２月１日現在

学部	部門名 聴覚障がい教育部門（ととろ部門）	肢体不自由教育部門（わかあゆ部門）	知的障がい教育部門（たいよう部門）	合計
幼稚部	2			2
小学部	6	１１	３４	５１
中学部	2	8	４２	５２
高等部		１３	５３	６６
合計	１０	３２	１２９	１７１

学部の特色

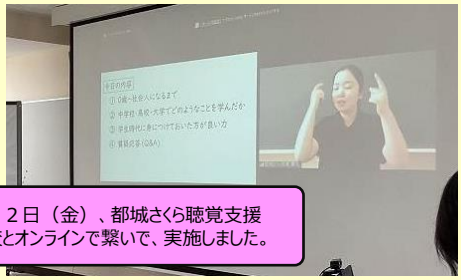
幼稚部	豊かな体験活動　基本的生活習慣の確立 保護者支援（関係機関との連携）
小学部	基礎学力の育成　集団参加 基本的生活習慣の定着 体力の向上
中学部	社会生活への適応 働く経験　**将来の進路に関する関心** 自主性の育成
高等部	社会性や豊かな人間性 自立と社会参加に向けた能力の伸長・定着 進路選択　就労支援　移行支援

今年度の取組

先輩と語る会を２回実施

	期　日	講　師	内容・方法
第１回	9月2日	聴覚障がい当事者　教諭 (宮崎県立都城さくら聴覚支援学校)	講話 （オンライン）
第２回	11月17日	志磨村　早紀　氏 (進行性難聴当事者・言語聴覚士)	講話・座談会 （対　面）

今年度の取組（９月：第１回先輩と語る会）

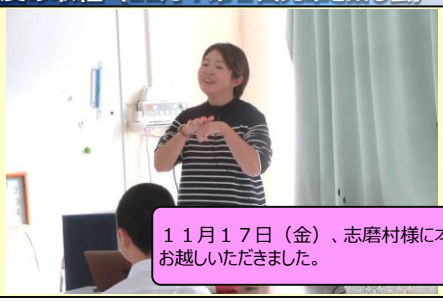


９月２日（金）、都城さくら聴覚支援学校とオンラインで繋いで、実施しました。

今年度の取組（９月：第１回先輩と語る会）

中学部生２名の他に、幼稚部の保護者も参加しました。

今年度の取組（11月：第２回先輩と語る会）



１１月１７日（金）、志磨村様に本校にお越しいただきました。

今年度の取組（11月：第２回先輩と語る会）

小学部生４名、中学部生２名の他に、幼稚部保護者も参加しました。

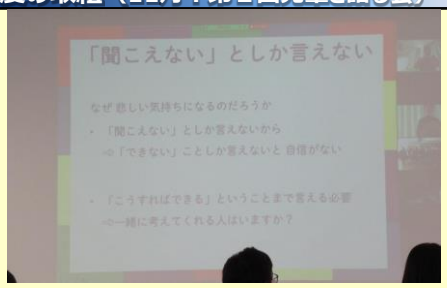
今年度の取組（11月：第２回先輩と語る会）

都城さくら聴覚支援学校中学部生、本校聞こえの通級指導教室利用生も、オンラインで参加しました。

今年度の取組（11月：第２回先輩と語る会）

① 自分の聞こえを自分でちゃんと知ること
② 自分のことを伝える方法を見つけること
③ コミュニケーションでは、双方向の歩み寄りが大事

今年度の取組（11月：第２回先輩と語る会）



今年度の取組（11月：第２回先輩と語る会）

講話の後は、参加者全員で座談会を行いました。参加者からの質問に、丁寧に答えてくださいました。

今年度の取組（11月：第２回先輩と語る会）

【例えば・・・】
Q 中学生の時には、どのようにコミュニケーションを取っていましたか？
Q 補聴器をつけて、嬉しかったことはなんですか？　など

今年度の取組（11月：第２回先輩と語る会）

先輩と語る会終了後も、志磨村さんを囲んでお話をしました。

取組の成果

○　成人聴覚障がい者の講話を聞くことで、色々な進路先があることを知ることができた。

○　進路先において支援を受けることができるということを知ることができた。
　そのためには、自分の聞こえや自分が使用している補聴器や人工内耳について知ることがとても大事であることを理解した。

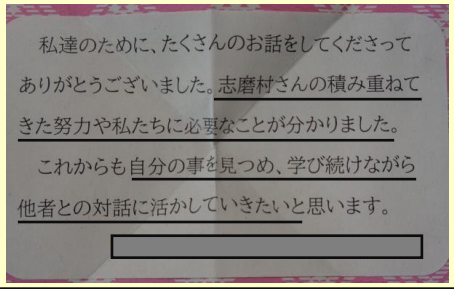
取組の成果

○　聴覚障がい者とだけではなく、色々な人とコミュニケーションを取るための方法を身につけておくことが大事であることを知った。
　そのためには、学び続けることが大切であることを理解した。

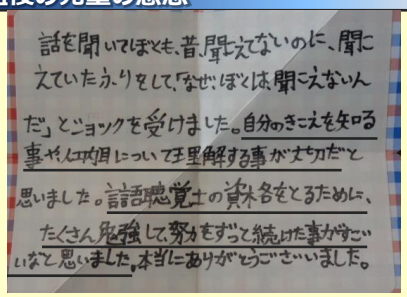
取組の成果

○　聴覚障がい者とだけではなく、色々な人とコミュニケーションを取るための方法を身につけておくことが大事であることを知った。
　そのためには、学び続けることが大切であることを理解した。

取組後の生徒の感想


私達のために、たくさんのお話をしてくださってありがとうございました。志磨村さんの積み重ねてきた努力や私たちに必要なことが分かりました。
これからも自分の事を見つめ、学び続けながら他者との対話に活かしていきたいと思います。

取組後の児童の感想


話を聞いてぼくも、昔、聞こえないのに、聞こえていたふりをして、「なぜ、ぼくは聞こえないんだ」とショックを受けました。自分のきこえを知る事や、工夫について理解する事が大切だと思いました。言語聴覚士の資格をとるために、たくさん勉強して、努力をずっと続けた事がすごいなと思いました。本当にありがとうございました。

今後の課題

○　「自分の聞こえ等について知ること。」、「様々なコミュニケーション手段を身につけること。」の２点について、教育課程の中でどのように指導していくか。

今後の課題

○　障がいの有無にかかわらず、共に活動できる場が増えるとよい。
　今後、全障がい種への理解がさらに深まることで、地域で一人ひとりが充実した生活を送ることができるようになることをのぞむ。

「わかりやすい版　だれでもいつでも学べる社会へ」文部科学省2020年3月発行）より

○　障がいのある人自身にも、「自分はこんな学びがしたい。」と希望を伝えてもらうことも必要。

○　どんな支援や配慮をしてほしいかが具体的に伝わることで、学びを提供する側も、障がい者本人も安心して生涯学習に取り組めるようになる。

延岡市「かねのね」の申込みフォームより

Q　参加について、配慮してほしいことがあれば、記入してください。

取組を終えて

今回の学びを、これからの生活につなげていってほしい。

（２）宮崎県立小林こすもす支援学校

令和５年度 共に学び、生きる共同社会コンファレンス ひなたのつどい
取組推進校 実践報告

地域で充実した生活を送るために
～夢・希望のこすもすを咲かせよう～

宮崎県立小林こすも す支援学校

---

1. 本校について
2. 取組の概要
3. 取組の実際
4. 成果
5. 課題

写真：生駒高原（小林市）

---

1 本校について

写真：生駒高原（小林市）

小林こすもす支援学校

○学校の沿革

平成17年 都城養護学校の分校として西諸県地域に都城養護学校小林校開校
・東方小学校敷地内に小学部
・東方中学校敷地内に中学部

平成20年 都城きりしま支援学校小林校へ校名変更

平成23年 都城きりしま支援学校高等部開設
・県立小林高等学校敷地内

令和２年 小林こすもす支援学校として独立開校

小学部	中学部	高等部
東方小学校に併設	東方中学校に併設	小林高校に併設

○教育目標

共生社会の一員として自立的に生きるために必要な力を養うとともに、児童生徒自らが願いを育み、その実現に向けて主体的に学ぼうとする、心豊かでたくましい児童生徒を育成する。 **自立する心と身体を育てる**

○校 訓

「なかよく」「たくましく」「夢にはばたく」

○経営方針

小・中・高の縦の連携と併設校の横の交流をとおして 、「なかよく」「たくましく」「夢にはばたく」の具現化を図るために、「互いに助け合い」「自立に向け」「家庭や地域のつながり」を大切にした学校を目指す。

---

2 取組の概要

写真：生駒高原（小林市）

○学校の経営方針

・**併設校との交流**
・「互いに助け合い」「自立に向け」**「家庭や地域のつながり」**を大切にした学校を目指す

○みやざきの共生社会を目指す生涯学習推進事業の目的

・特別支援学校における障がいのある児童生徒を対象とした **生涯学習のイメージ作り**

○具体的な取組
①余暇についての授業実践
②地域との交流（併設する小林高等学校、地域で活動されている民間団体）

○取組により期待される効果

余暇の過ごし方の大切さについて確認し、様々な過ごし方があることを学習する。

普段の生活における余暇（昼休み、帰宅後、休日）の過ごし方、卒業後の余暇の過ごし方について考え、自分の趣味や得意なことを改めて見直したり、興味のある活動に挑戦し、余暇の選択肢を広げたり、生き生きとした生活を送る基盤を作ることができるようにする。

③ 取組の実際

①余暇についての授業実践

・11月24日（金）6校時　事前学習
（余暇について、現在の余暇の過ごし方、自分の好きなこと等の確認）

余暇の過ごし方を記入

①余暇についての授業実践

・11月28日（火）5･6校時　体験学習（サンライズスポーツクラブの活動体験）

サンライズスポーツクラブ

・小林市細野で現在１７名で活動
・県内のスポーツクラブでご活躍されている

①余暇についての授業実践

・11月28日（火）5･6校時　体験学習（サンライズスポーツクラブの活動体験）

ボッチャの体験

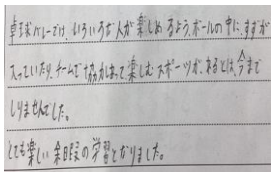
①余暇についての授業実践

・11月28日（火）5･6校時　体験学習（サンライズスポーツクラブの活動体験）

卓球バレーの体験

①余暇についての授業実践

・12月6日（水）5校時　事後学習
（体験学習の振り返り、将来の夢、地域の生涯学習等の確認）


卓球バレーでは、いろいろな人が楽しめるようボールの中に、すきまが入っていたり、チームで協力して楽しむスポーツがあることは今までしりませんでした。
とても楽しい余暇の学習をかりました。

体験活動の感想

①余暇についての授業実践

・12月6日（水）5校時　事後学習
（体験学習の振り返り、将来の夢、地域の生涯学習等の確認）

将来の夢や希望は何だろう？

将来の夢や希望のこすもす

②地域との交流（併設する小林高等学校との交流）

本校と小林高等学校の生徒会の話し合い（内容や運営について）

②地域との交流（併設する小林高等学校との交流）

木工班による作業内容説明・道具クイズ・木材の早切り対決

②地域との交流（併設する小林高等学校との交流）

手工班による作業内容説明・コーヒー試飲のふるまい

②地域との交流（併設する小林高等高校との交流）

環境・メンテナンス班による自在ぼうきの使い方、窓掃除の実演と体験

②地域との交流（併設する小林高等学校との交流）

フォトブースの利用　キッチンカーで買い物　茶道部の茶話会

②地域との交流（併設する小林高等学校との交流）

本校と小林高等学校の生徒会の活動（ふりかえりのポスター作成）

②地域との交流（昨年度の授業の様子）

霧島おむすび自然学校
代表　壹岐さん

②地域との交流（地域で活動する民間団体との交流）

・高等部３年生を対象に、霧島おむすび自然学校の活動を案内（９～１２月）
・希望する生徒は保護者と一緒に活動に参加

１０月　梨狩り

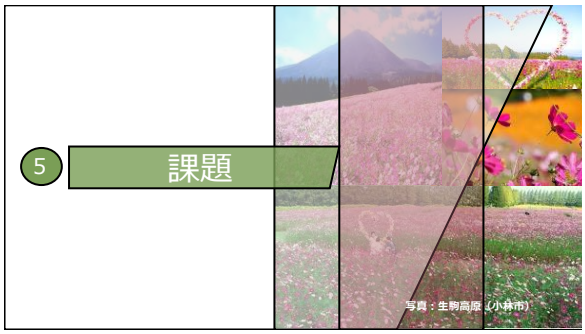
②地域との交流（地域で活動する民間団体との交流）

１１月　登山

④ 成果

①授業実践について
- ○　生活を充実させるために、余暇の過ごし方が大切であることや余暇のポイントを全体で確認することができた。
- ○　サンライズスポーツクラブとの体験活動を通して、障がいの有無や程度に関わらず、だれもが活動できるスポーツの楽しさを体験できた。学校外でもスポーツができるところがあることを知ることができた。

②併設校、地域団体との交流について
- ○　生徒会同士の話し合い、文化祭への参加により同世代の交流の機会をもつことができた。
- ○　高等部3年生に地域団体の活動を案内し、興味のある活動に参加し、余暇の選択肢を広げる経験ができた。



①授業実践について

○　余暇の過ごし方の実践まで深めることができなかった。余暇の過ごし方を充実させるために、継続して体験学習に取り組むことが必要。

例）生徒が様々な余暇を楽しむ経験や、様々な余暇を自分の意思で選択すること、自分の好みや気持ちを表現する活動に継続して取り組むこと

○　結果としてどのように生徒の余暇の生活を変化させたのか、年間を通して継続して指導に取り組み、検証することが必要。

②併設校、地域団体との関わりについて

○　小林高校との交流内容の充実

○　地域の団体の活動や生涯学習の講座へ参加するためには、申し込み、交通手段、参加費や準備物の用意なども必要であり、家庭の理解や協力も求められる。

Ⅳ　普及啓発・情報提供

みやざき
共生社会のまなび

1　「ひなたのつどい（共生社会コンファレンス）」開催報告

Ⅰ　概要

1　主催
宮崎県教育委員会、文部科学省

2　運営委託
株式会社ＡＶＣ放送開発

3　テーマ
誰もが楽しみや学びに出会うために

4　日時
令和６年１月 27 日(土)　午後１時から午後４時まで

5　開催方法・参加方法
ハイブリッド開催
- 会場での参加
- ＷＥＢ会議システム「ＺＯＯＭ」でのオンライン参加

6　会場
宮崎県教育研修センター２階　研修ホール
〒880-0835 宮崎市阿波岐原町前浜 4276-729

7　広報
○　チラシの配布（特別支援学校、市町村教育委員会等）
○　県庁ホームページ、県生涯学習課ホームページ、ＳＮＳ等での周知
○　フリーペーパー等でのイベント紹介

8　日程及び内容

12:30　13:00　13:15　13:35　13:45　14:50　15:00　15:55　16:00

接続開始	オープニング	記念トーク	団体紹介	実践報告	休息	トークセッション	クローシング

（１）　オープニング　　※全体司会　真北　聖子氏（シンガーソングライター）
　○　文部科学省の事業説明（障がい者学習支援推進室）
　○　宮崎県の取組説明（教育庁生涯学習課）

（２）　記念トーク
　「波瀾万丈物語　～未来へ向けて～」　歌手　米良　美一氏

（３）　県内団体紹介（動画）
　○　子どもと家族・関係者の集まり　ポン太クラブ（都城市）
　○　宮崎大学ボランティアサークル　びいだま（宮崎市）
　○　バスケットボールチーム　ブルーホーク（宮崎市）
　○　輝きエイサーサークル（日南市）
　○　ＨＰミュージックサポート（都城市）

○　自主学級「あいとぴあ」（日向市）
○　宮崎手話サークル「いもっこ」（宮崎市）

（４）　実践報告
○　公民館等モデル　　（延岡市教育委員会社会教育課　飯野　小巻氏）
○　大学公開講座　（宮崎県立看護大学看護研究・研修センター　川原　瑞代氏）
○　特別支援学校取組推進校　（宮崎県立延岡しろやま支援学校　森永英津子氏）
（宮崎県立小林こすもす支援学校　安藝美友希氏）

（５）　トークセッション
○　テーマ　「誰もが楽しみや学びに出会うために」
○　登壇者　米良　美一氏（歌手）
上原　里奈氏（都城市生涯学習課）
谷口　祐貴氏（宮崎県青島青少年自然の家）
堀口　靖之氏（宮崎市聴覚障がい者協会）
丸山　華音氏（南九州大学人間発達学部の学部生）
○　進　行　真北　聖子氏

（７）　クロージング

９　情報保障

（１）　手話通訳（会場、オンライン配信）
（２）　文字テロップ（オンライン配信）

10　参加対象

障がいのある方々の生涯学習に関心のある県民

11　申込み方法・申込先

（１）　２次元コード（ＷＥＢフォーム）、メール、ＦＡＸ（チラシ裏面）で受付
（２）　申込先・問い合わせ先　株式会社ＡＶＣ放送開発

12　オンライン配信テスト、オンライン参加への対応

（１）　接続テストは、令和６年１月 20 日(土)午前 10 時から午前 11 時 30 分に実施
（配信先：ＡＶＣ放送開発）
（２）　ＺＯＯＭのＩＤパスコード等は、令和６年１月２５日(木)に連絡

13　事後

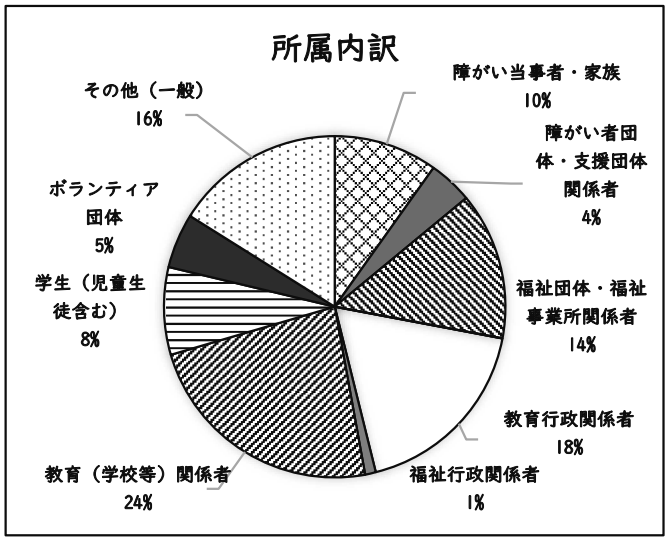
（１）　参加者アンケートの実施
（２）　県生涯学習課ホームページ「みやざき学び応援ネット」更新

Ⅱ　コンファレンスの実際

1　事前の参加申込人数

○　ＷＥＢフォーム　　179 名
○　ＦＡＸまたは電話　　14 名
○　事前申込人数　　193 名

障がい当事者・家族	19
障がい者団体・支援団体関係者	8
福祉団体・福祉事業所関係者	27
企業関係者	0
教育行政関係者	35
福祉行政関係者	2
教育（学校等）関係者	45
学生（児童生徒含む）	16
ボランティア団体	10
その他（一般）	31
合計	193



2　当日の参加人数

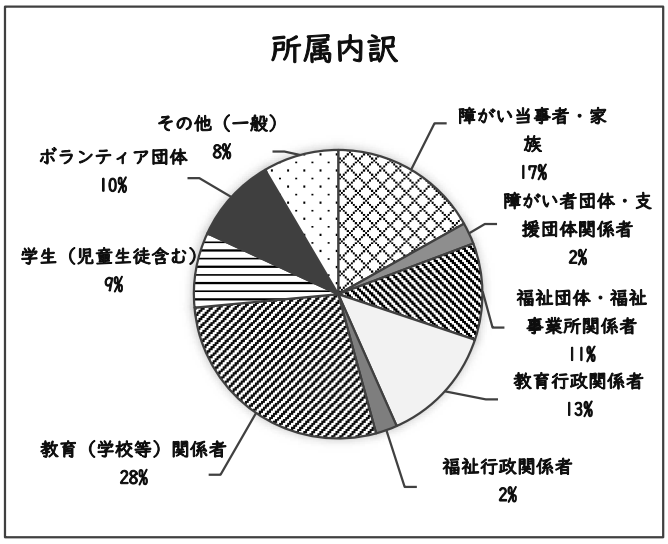
会場	107 名
オンライン	97 名
合計	204 名

※　当日申込含む（都城きりしま支援学校でのパブリックビューイング等）

3　アンケートの回答数

○　回答数　83 名（紙媒体 63 名、ＷＥＢフォーム 20 名）
○　回答者の参加形態　会場 73 名、オンライン 10 名
○　回答者の所属内訳

障がい当事者・家族	14
障がい者団体・支援団体関係者	2
福祉団体・福祉事業所関係者	9
企業関係者	0
教育行政関係者	11
福祉行政関係者	2
教育（学校等）関係者	23
学生（児童生徒含む）	7
ボランティア団体	8
その他（一般）	7
合計（紙 63、ＷＥＢフォーム 20）	83



３　記念トークの概要

自身の難病のことや歌との出会いを、坂本九氏の「心の瞳」など歌唱を交えながら紹介した。８月に就任した県の読書アンバサダーなどにも触れながら、得意なことを生かして社会に貢献したいとの思いを伝えた。また、幼少期に自宅近くの公民館で歌を褒められたこと、歌への思いや音楽の道に進んだことなども話した。

【参加者から】

○　米良さんをはじめとして色んな団体の方々の関わり方など、障がい者の方々への支援などが楽しく聞けて良かったです。共生社会の益々の発展期待しております。
○　米良さんの話をもっと聞いてみたかった。
○　米良さんが盛り上げてくれましたね。真北さんの進行もさすがです。当事者２人が前に出ることで共生社会の姿が強調されよかったです。
○　司会の真北さん、歌手の米良さんの温かいお人柄での進行にほっこりしました。
○　米良さんがおっしゃった「どんな人間でもいい所と悪い所がある」という言葉は、障がい者と触れ合う時、健常者は異常に障がいがある人をあわれんだり、必要以上に気を遣ったりすることが逆差別になったりするということに改めて気づくきっかけをつくってくれました。さらに、米良さんが「自分が得意とすることを生かして社会の役に立つ活動をする」という言葉も、将来何がしたいのか悩んでいる学生たちの心に響いたのではないかと感じます。最後に、障がいがある人々の日常や活動を知ることで、自分が恵まれた存在であることを改めて認識できました。米良さんの「恵まれた体」という言葉にはっとした自分に気づくことができたのが本当に良かったと思います。
○　米良さんの歌に感動しました。いろいろな団体の取組を知り、元気がでました。みんなで協力し合える世の中でありますように。
○　米良さんのお話を伺い、当事者の方の気持ちや気持ちの変化などを知ることができました。知らないからこそ、近づけなかったり、逆の対応になってしまったりと、お互いを知ることが大切なのだと感じました。
○　米良さんの歌にジーンとしました。心に沁みました。ありがとうございました。
○　初めて米良さんにお会いして、人柄に感銘を受けました。
○　米良さんのお話が宮崎弁で親しみやすく、とても深いもので心を打たれました。

4　県内団体紹介の概要（動画）

子どもと家族・関係者の集まりポン太クラブ（都城市）
宮崎大学ボランティアサークルびいだま（宮崎市）
バスケットボールチーム　ブルーホーク（宮崎市）
輝きエイサーサークル（日南市）
ＨＰミュージックサポート（都城市）
自主学級「あいとぴあ」（日向市）
宮崎手話サークル「いもっこ」（宮崎市）

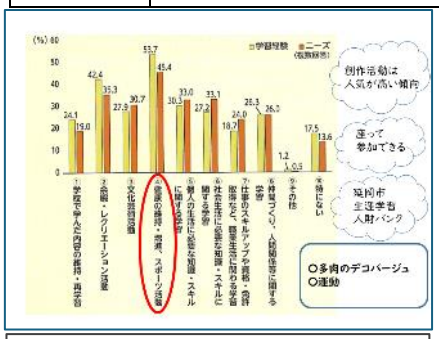
【参加者から】

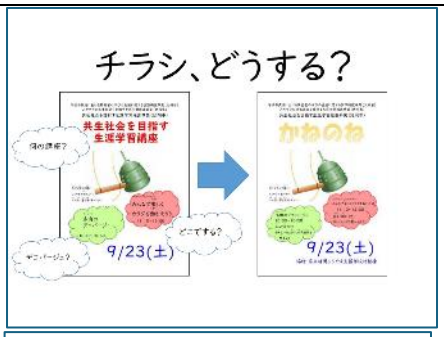
○　たくさんの団体が多様な取組をしているので、これからも続けていってほしいと思っています。
○　県内団体紹介（動画）各団体１分程でしたので直接見てみたいと思いました。
○　バスケットボールの皆さん、何回か観にいきました。お母さん方の熱い応援に感動しました。これからも頑張ってください。

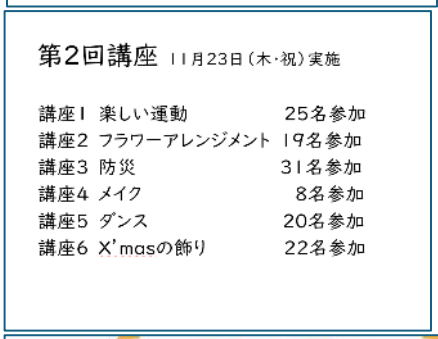
5　実践報告の概要

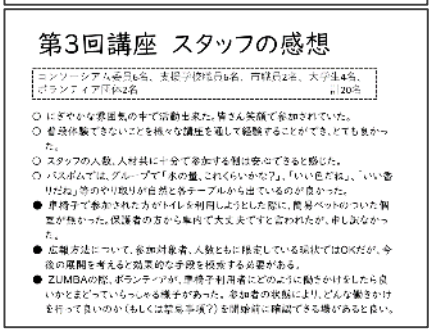
（１）　公民館等モデル

団体名	延岡市教育委員会社会教育課
報告題	生涯学習講座「かねのね」の取組
報告者	延岡市教育委員会社会教育課 指導主事 飯野 小巻氏
概　要	延岡しろやま支援学校を会場に、年３回の講座を開催した。当事者アンケートの結果に応じて、各回、メイクやダンスなど複数のプログラムを実施した内容について、その企画段階から実際の活動までを報告した。







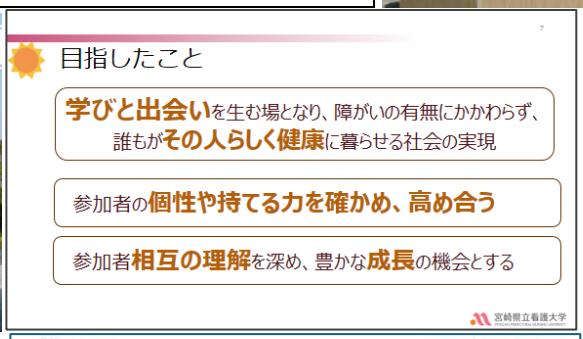


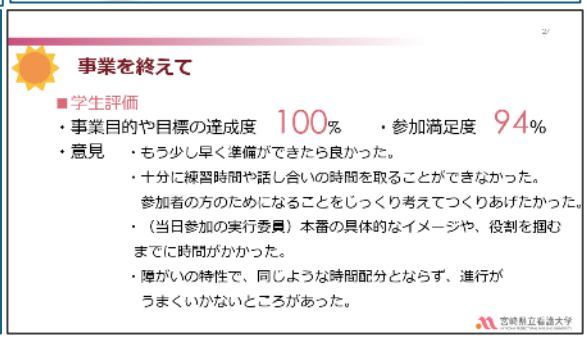
【参加者から】

○　延岡市の取組内容が充実しているように感じました。初めての取組とのことでしたが、展開が素晴らしいと思いました。 ○　延岡市の町、支援学校、大学など、各機関がつながっていく途中過程を聞くことができ、これからが楽しみな地域、取組だと楽しみになりました。 ○　市町村の生涯学習講座への広がりを実感しました。今後も市町村担当者会を充実させて、全ての市町村で講座が実施されるといいなと思いました。 ○　特別支援学校の協力による取組。やはり学校は管理職の理解度によってここまで協働できるのだなと印象的でした。

（２） 大学公開講座

団体名	県立看護大学
報告題	ひむかアカデミア in 看護大学
報告者	県立看護大学看護研究・研修センター長 川原　瑞代氏
概　要	県立看護大学で実施した講座について、学生と視覚障がいや聴覚障がいのある障がい当事者が一緒に企画し取り組んだ事例を報告した。学生が集まって、当事者の方にとって必要な配慮を具体的に考えながら準備を進めた様子なども紹介した。





【参加者から】

○　県立看護大学が、施設や人材を使って事業を展開していたが、それが学生の成長にもつながっていて、ウェルビーイングだなと感じました。

○　看護大学の取組を通して、学生が学ばれた視点、学んでいかれた過程が大変すばらしいと思いました。

○　障がいのある人の生涯学習の推進についての県内の取組を、全く把握していなかったが、それを知ることができて良かった。看護大学の大学生や地域の高校生が、がんばってるなぁと思いました。参加して良かったです。

（３）特別支援学校取組推進校

① 延岡しろやま支援学校

団体名	延岡しろやま支援学校
報告題	取組推進校発表（聴覚障がい教育部門）
報告者	延岡しろやま支援学校　教頭　森永　英津子氏
概　要	延岡しろやま支援学校の聴覚障がい教育部門で、中学部生徒と小学部児童を対象に、学校などで働く当事者が講師となった取組を紹介した。卒業後の進路や当事者以外とのコミュニケーションなどについて学んだことを報告した。

学校の特色

延岡しろやま支援学校

- 聴覚障がい教育部門（ところ部門）【設置学部】幼稚部、小学部、中学部
- 肢体不自由教育部門（わかあゆ部門）【設置学部】小学部、中学部、高等部
- 知的障がい教育部門（たいよう部門）【設置学部】小学部、中学部、高等部

幼児児童生徒数（部門別）

令和５年１２月１日現在

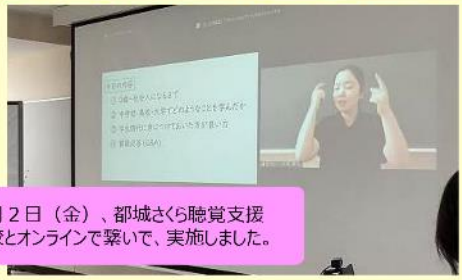
学部	聴覚障がい教育部門（ところ部門）	肢体不自由教育部門（わかあゆ部門）	知的障がい教育部門（たいよう部門）	合計
幼稚部	2			2
小学部	6	１１	３４	５１
中学部	2	８	４２	５２
高等部		１３	５３	６６
合計	１０	３２	１２９	１７１

今年度の取組

先輩と語る会を２回実施

	期　日	講　師	内容・方法
第１回	9月2日	聴覚障がい当事者　教諭（宮崎県立都城さくら聴覚支援学校）	講話（オンライン）
第２回	11月17日	志磨村　早紀　氏（進行性難聴当事者・言語聴覚士）	講話・座談会（対　面）

今年度の取組（９月：第１回先輩と語る会）



９月２日（金）、都城さくら聴覚支援学校とオンラインで繋いで、実施しました。

今年度の取組（11月：第２回先輩と語る会）

１１月１７日（金）、志磨村様に本校にお越しいただきました。

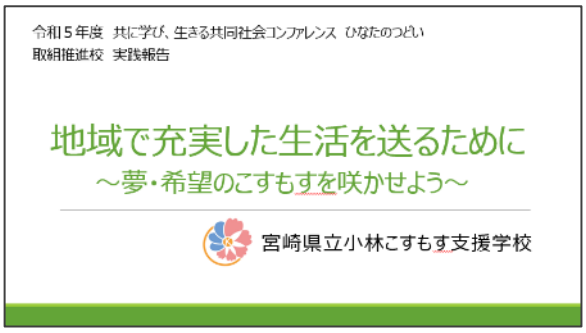
取組の成果

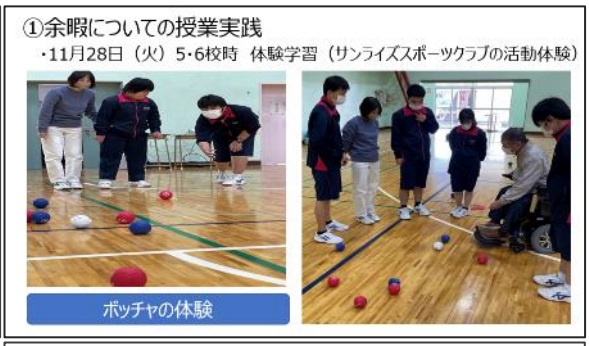
○　成人聴覚障がい者の講話を聞くことで、色々な進路先があることを知ることができた。

○　進路先において支援を受けることができるということを知ることができた。
　そのためには、自分の聞こえや自分が使用している補聴器や人工内耳について知ることがとても大事であることを理解した。

② 小林こすもす支援学校

団体名	小林こすもす支援学校
報告題	地域で充実した生活を送るために ～夢・希望のこすもすを咲かせよう～
報告者	小林こすもす支援学校高等部　安藝　美友希氏
概　要	小林こすもす支援学校を紹介した後、高等部で行った余暇活動に関する学習や、地域の障がい者団体を講師としたニュースポーツ体験会を報告した。併設する小林高等学校との交流なども紹介した。





①授業実践について
- ○　生活を充実させるために、余暇の過ごし方が大切であることや余暇のポイントを全体で確認することができた。
- ○　サンライズスポーツクラブとの体験活動を通して、障がいの有無や程度に関わらず、だれもが活動できるスポーツの楽しさを体験できた。学校外でもスポーツができるところがあることを知ることができた。

②併設校、地域団体との交流について
- ○　生徒会同士の話し合い、文化祭への参加により同世代の交流の機会をもつことができた。
- ○　高等部3年生に地域団体の活動を案内し、興味のある活動に参加し、余暇の選択肢を広げる経験ができた。

【参加者から】

○　小林こすもす支援学校の取組は、わかりやすく、併設校との交流は、まさに、共生社会の一環だと感心しました。

○　学校で勤務していて感じていることを発信して、いろいろなところとつながり、みんなでよりよい方向につなげていきたいと思う。

○　学校での指導内容や生きる上で必要な内容について、卒業後も、地域の中で継続して教育を提供できる場や人材、体制が整えば整うとよいと感じています。学校現場として、生涯学習に寄与できることを模索していきたいと思います。

○　団体や学校によってさまざまな取組が楽しそうだと思いました。これからは、共生社会について考えを深め、生かしていきたいと思いました。

6　トークセッションの概要

テーマ	誰もが楽しみや学びに出会うために
登壇者	米良　美一氏（歌手） 上原　里奈氏（都城市生涯学習課主幹） 谷口　祐貴氏（青島青少年自然の家職員） 堀口　靖之氏（宮崎市聴覚障がい者協会会長） 丸山　華音氏（南九州大学人間発達学部の学部生）
進　行	真北　聖子氏
概　要	登壇者が所属している団体や大学等の取組を報告した。それぞれの登壇者は、司会の真北さんと米良さんとトークするの中で、この事業に初めて取組んだ感想や、団体で活動している様子などを紹介した。

Ⅲ　成果と課題

1　成果

○　米良さんが、障がいのある人と無い人とが隔たりなく学ぶことについて話したことで、参加者の気づきにつながった。

○　学生や一般の参加者が昨年よりも多かった。参加者から、障がいのある方々の生涯学習について考える機会となったという感想を多くいただいた。

○　コンファレンスの運営業務を委託したことで、当日は安定した音響やオンライン配信で実施することができ、ステージ運営等の他業務に集中することができた。

2　課題

○　発表時間が長くなるなどしたため、質疑応答の時間が取れず、会場やオンラインの参加者が意見感想を話す機会がもてなかった。

○　視覚障がいのある方などへ音声による情報保障が十分でなかった。

○　一般の参加者にとって、会場の県教育研修センターは馴染みがない施設であるためていねいな場所の案内が必要だった。

チラシ表面

みやざき
共生社会のまなび
※このマークは、本事業が目指す「共に学ぶ社会づくり」を表しています。
令和5年度 共に学び、生きる共生社会コンファレンス
県教育研修センター第4回マイトライ（生涯学習・社会教育課題別研修）
日本のひなた宮崎県
ひなたのつどい
～誰もが楽しみや学びに出会うために～
令和6年
1月27日(土) 13:00～16:00
参加無料
要事前申込
会場
宮崎県教育研修センター〈研修ホール〉
宮崎市阿波岐原町前浜4276-729
参加者
どなたでも参加できます
障がいの有無に関わらず、誰もが共に学び、共に生きる共生社会の実現に向けて、障がい者の生涯を通じた学びを推進する輪が広がっています。
米良さんの記念トークや県内の関係者による先行事例の紹介、トークセッションなどをとおして、一緒に共生社会について考えてみませんか。
オンラインでも参加できる
ハイブリッド開催
（会場またはZOOM）
いずれも事前申込みをお願いします
※申込み方法の詳細は裏面をご覧ください
申込締切 1月17日(水)
宮崎県教育研修センター
ラグゼーツ業
宮崎市立檍北小
宮崎県総合自動車運転免許センター
みやざき臨海公園
一葉稲荷神社
イオンモール宮崎
13:15～
記念トーク
波瀾万丈物語～未来に向けて～
宮崎県西都市出身。宮崎駿監督作品、映画「もののけ姫」の主題歌を歌い、一躍脚光を浴びる。テレビ・ラジオにも多数出演し、親しみやすい人柄と個性豊かな語り口で、世代を超えて人気を集めている。
令和3年4月、西都市民会館長に就任し、コンサートや講座など県内の文化活動振興にも貢献。西都市内の幼稚園や保育園、小学校などで、読み聞かせコンサートを実施しており、令和5年8月「みやざき読書アンバサダー」に就任。
みやざき読書アンバサダー
歌手 米良 美一氏
主催 宮崎県教育委員会 文部科学省

チラシ裏面

13:35～ 県内団体紹介（動画）

子どもと家族・関係者の集まり
ポン太クラブ
都城市

宮崎大学
ボランティアサークル
びいだま
宮崎市

バスケットボールチーム
ブルーホーク
宮崎市

輝きエイサーサークル
日南市

HPミュージックサポート
都城市

自主学級
あいとぴあ
日向市

宮崎手話サークルいもっこ
宮崎市

13:45～ 実践報告

＼ 公民館モデル ／

延岡市社会教育課 生涯学習講座「かねのね」

社会教育課と延岡しろやま支援学校が協力して、福祉事務所などの利用者や一般市民を対象とした講座を実施しました。

＼ 大学公開講座 ／

県立看護大学「ひむかアカデミアin看護大」

企画会議に、障がい者が学生と一緒に参加し、学生が主体となって企画したプログラムで講座を実施しました。

＼ 取組推進校 ／

延岡しろやま支援学校

聴覚部門の小学部・中学部の児童生徒を対象に、卒業生2名から仕事や卒業後の生活などの講話を2回実施しました。

小林こすもす支援学校

進路学習の一環としての生涯学習の体験や、地元の団体の方々が講師となり、ニュースポーツの体験を行いました。

15:00～ トークセッション

誰もが楽しみや学びに出会うために

登壇者

歌手
米良 美一氏

都城市生涯学習課
上原 里奈氏

青島青少年自然の家
谷口 祐貴氏

宮崎市聴覚障害者協会
堀口 靖之氏

南九州大学（学生）
丸山 華音氏

総合司会
シンガーソングライター **真北 聖子氏**

お申込み方法

申込締切 1月17日（水）

WEBフォーム・FAX・電話
のいずれかよりお申込みください。
●右記の2次元コードを読み込んで、必要事項を入力する。
●下記の「FAX申込用紙」に必要事項を記入して、FAXで送付する。

お問合わせ先
株式会社AVC放送開発「ひなたのつどい」事務局
TEL:0985-51-9703
宮崎県教育庁生涯学習課 生涯学習推進担当
TEL:0985-26-7244

ひなたのつどい FAX申込用紙

FAX 0985-53-8922（AVC放送開発）

フリガナ		参加者の区分	□障がい当事者・家族 □福祉行政関係者 □障がい者団体・支援団体関係者 □教育（学校等）関係者 □福祉団体・福祉事業所関係者 □学生（児童生徒含む） □企業関係者 □ボランティア団体 □教育行政関係者 □その他（一般）
氏　名			
所属先		参加方法	□会場　□オンライン
連絡先	電話番号	メールアドレス	
当日は手話通訳を行う予定です。 その他の配慮が必要な場合はお知らせください。			

※お申込みいただいた個人情報はこの大会の運営目的にのみ利用いたします。

２　民間放送局による特別番組・啓発ＣＭの制作放送報告

１　広報内容

特別番組、啓発ＣＭの制作放送

２　期日

（１）特別番組の放送日

令和５年 12 月３日(日)　午後４時 55 分から午後５時 25 分まで　30 分間

（２）啓発ＣＭ

令和５年 11 月 25 日(土)から令和５年 12 月９日(土)まで　15 日間、全 30 本

３　業務委託先

株式会社テレビ宮崎

４　出演者

（１）特別番組

○　歌手　米良　美一　氏　＜ナビゲーター＞

○　株式会社テレビ宮崎アナウンサー　柳田　哲史　氏　＜ナビゲーター＞

○　延岡市教育委員会社会教育課の講座の参加者、ボランティア、スタッフ

○　都城市教育委員会生涯学習課の講座の参加者、ボランティア、スタッフ

○　宮崎県立看護大学の講座の参加者、ボランティア、スタッフ

○　宮崎県教育委員会教育長　黒木　淳一郎

（２）啓発ＣＭ

○　株式会社テレビ宮崎アナウンサー　柳田　哲史　氏

○　特別番組取材時の講座参加者やボランティア、スタッフ

５　特別放送の内容

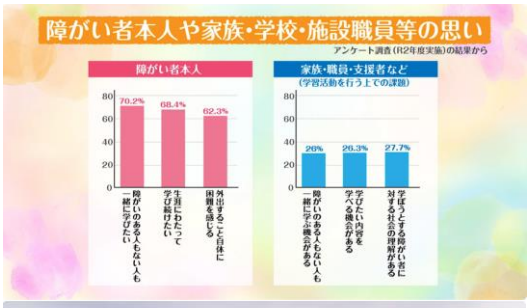
（１）オープニング

（２）延岡市教育委員会社会教育課の講座「かねのね」紹介

（３）都城市教育委員会生涯学習課の講座「フットパス体験会」紹介

（４）宮崎県立看護大学の公開講座「ひむかアカデミア in 看護大学」紹介

（５）クロージング



6　視聴者より（アンケート）

○　障がいの有無に関係なく、社会の中でお互いを尊重して共生していける社会づくりがとても大切だということが伝わりました。また、若い力はこれからの未来に希望がもてました。そして、これから社会が支援や対策を充実させて、障がい者の方々が明るくいきいきと生活できる環境を整えていく必要があると思いました。

○　聴覚障がい者のために字幕が付いてて良かったです。

○　昨年の「つながる」に引き続き、今年も視聴しました。共生社会の実現のためには、どれだけ共に時間を過ごせるか、共有できる体験を重ねていくことが大事なのだなと改めて感じました。せっかくできたつながりを絶やさずに、今年や昨年の番組で出演された学生さん達のその後（福祉や医療の現場で働き出している人も多いかと思います。）も継続的に取り上げていただけたらなと思います。

○　各地でさまざまな「つながり」方をされているのを知れて嬉しかったです。参考になりそうなアイデアが満載でした。障がいのある方が身近にいない人にも壁が低くなり、当事者やご家族も躊躇せずに興味ある活動にトライ出来ると思うので、定期的に色んな活動が放送されるといいなと思いました。

○　障がいを持っていると外出やイベントなどに参加しづらいため、周りの人、学生たちの協力で一緒の時間を共有して楽しむ様子が良かった。そこには笑顔があって、お互いが知るきっかけとなり、思い込みなど取っ払っていける。県立看護大学の皆さんは、聴覚障がい者や視覚障がい者に日頃接する機会が少ないと予想されるが、特性を知り考えるきっかけが増えるといいと思う。

7　アーカイブ配信

テレビでの放送後に、アーカイブ動画として、宮崎県教育委員会生涯学習課ホームページ「みやざき学び応援ネット」にて配信している。

みやざき学び応援ネット
新生涯学習総合情報提供システム
https://www.sun.pref.miyazaki.lg.jp/

「つながる」ＵＲＬ

８　成果と課題

（１）成果

○　アンケートに、「障がいのある方が、今回のような活動の場を求めてらっしゃるのがよく伝わってきました。これからも続けていけるといいと思います。」、「障がいをある方とない方が、共に時間や感情を共有し、双方が笑顔だったことがとても印象的でした。」など一般の方からの感想が多く、多くの方に県内で行われている障がい者の生涯学習推進の取組を知ってもらうことができた。

○　県内の各学校に案内したことで、視聴した児童生徒、学生からアンケート回答があった。

○　番組全てに字幕をつけたことで、聴覚障がいや知的障がいのある方々から「テレビで字幕設定をしなくてもよかった。」「内容が理解しやすかった。」などの感想があった。

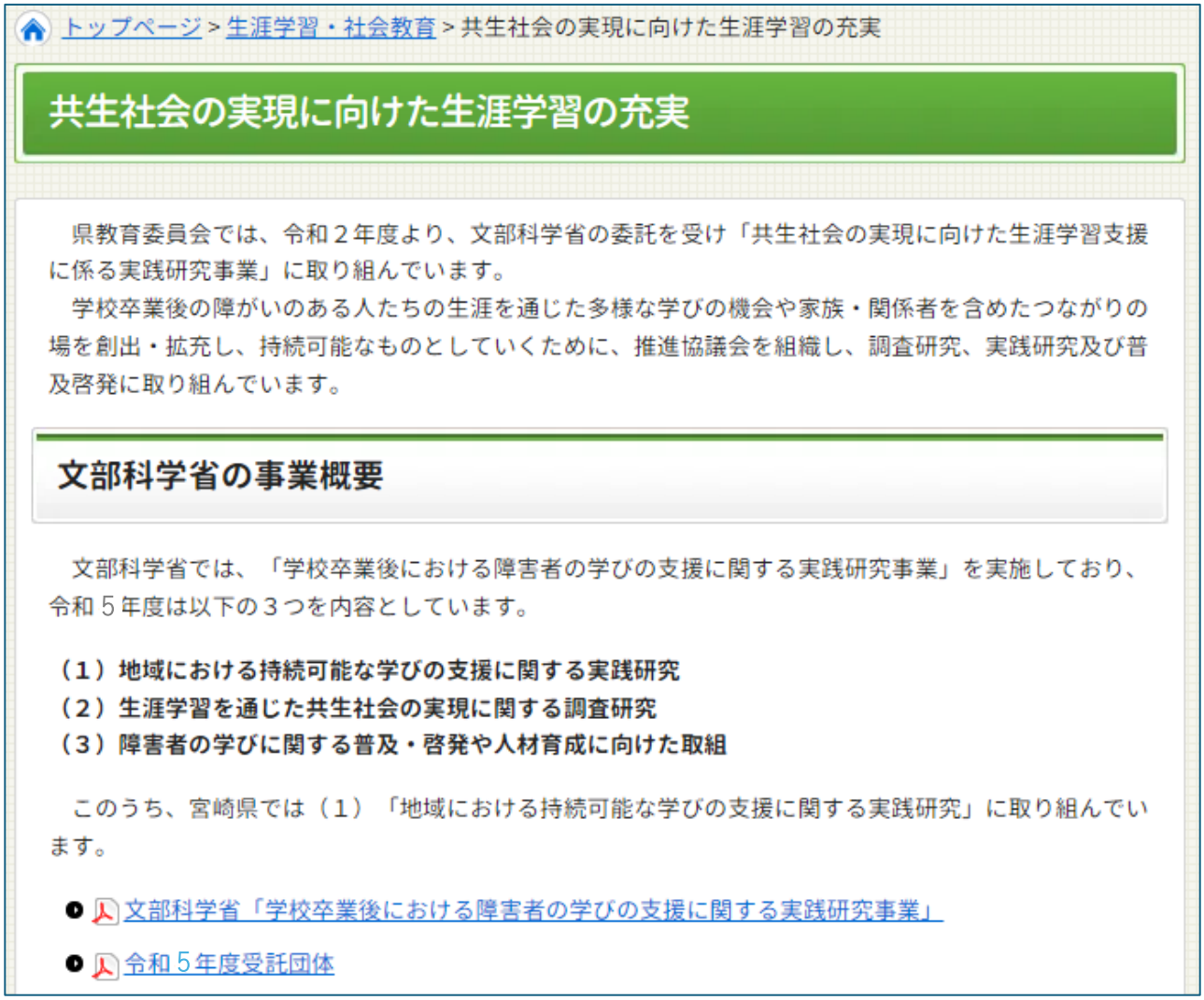
（２）課題

○　できるだけ多くの一般の視聴者に視聴してもらう工夫が、今後も必要である。

○　昨年度と今年度の特別番組は県内の取組を紹介する構成だったので、県立看護大学の公開講座のように学生と当事者が協働した企画運営などを検討する必要がある。

3　ホームページでの情報提供

県教育庁生涯学習課ホームページ「みやざき学び応援ネット」に本事業の情報を掲載するページを設け、協議会の記録や特別番組のアーカイブ動画、コンファレンスの様子などの情報を掲載した。



トップページ > 生涯学習・社会教育 > 共生社会の実現に向けた生涯学習の充実

共生社会の実現に向けた生涯学習の充実

県教育委員会では、令和２年度より、文部科学省の委託を受け「共生社会の実現に向けた生涯学習支援に係る実践研究事業」に取り組んでいます。

学校卒業後の障がいのある人たちの生涯を通じた多様な学びの機会や家族・関係者を含めたつながりの場を創出・拡充し、持続可能なものとしていくために、推進協議会を組織し、調査研究、実践研究及び普及啓発に取り組んでいます。

文部科学省の事業概要

文部科学省では、「学校卒業後における障害者の学びの支援に関する実践研究事業」を実施しており、令和５年度は以下の３つを内容としています。

（１）地域における持続可能な学びの支援に関する実践研究
（２）生涯学習を通じた共生社会の実現に関する調査研究
（３）障害者の学びに関する普及・啓発や人材育成に向けた取組

このうち、宮崎県では（１）「地域における持続可能な学びの支援に関する実践研究」に取り組んでいます。

- 文部科学省「学校卒業後における障害者の学びの支援に関する実践研究事業」
- 令和５年度受託団体

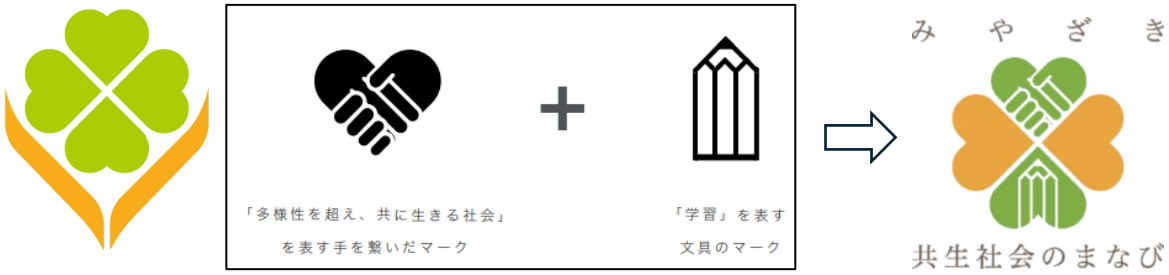
また、県内各地で行われている生涯学習に関する情報については、同ホームページの更なる活用を検討している。

4　障がい者の生涯学習推進を表すシンボルマーク

障がい者の生涯学習を推進するために、市町村や社会教育施設等で実施する講座において、障がいのある方々が受講できる講座や、障がいの有無にかかわらず誰もが参加できる講座であることを表すために、シンボルマークを作成した。

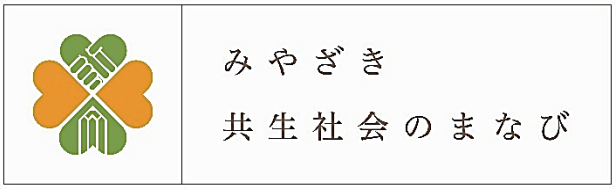
講座の案内チラシや講座一覧等に記載して、障がいのある方も受講できる講座やイベントを表すマークとして用いる。

1　シンボルマークが示す意味



内閣府の共生社会制作シンボルマークである四つ葉のクローバーをモチーフに、手を繋いだマークで「共生社会」を、文具のマークで「学習」の意味を加え、共生社会での学びを表す。
オレンジは人が創る温かいコミュニティーを、グリーンが幸せ・やすらぎを表す。

2　シンボルマークの形態



3　使用例

○　都城市教育委員会生涯学習課の講座「フットパス体験会」
○　延岡市教育委員会社会教育課の講座「かねのね」
○　宮崎県立看護大学の公開講座「ひむかアカデミア in 看護大学」

4　使用許諾や使用料など

○　県内のおいて、障がい者の生涯学習が参加できる講座や、障がいの有無にかかわらず誰もが参加できる講座・イベント等を表す際に使用することができる。
　申請は必要ないが、講座名などを県生涯学習課へ連絡する。
○　使用料は設けない。

5　利用方法

宮崎県教育庁生涯学習課ホームページ「みやざき学び応援ネット」から、画像データをダウンロードする。(JPG、PNG)
＜ダウンロード先 URL＞　みやざき学び応援ネット　https://www.sun.pref.miyazaki.lg.jp/

＜メモ＞

Ⅴ　読書バリアフリー法に関連する取組

みやざき
共生社会のまなび

1　図書館職員等スキルアップ研修（宮崎県立図書館）

目　　的	「読書県みやざき」を支える人材を育成するため、図書館（室）のニーズに応じた専門研修を実施し、図書館職員の資質向上を図る。	
研修会名	「どうする？障がい児・者サービス-図書館だからできること-」 障がい者サービス研修会	「図書館における読書バリアフリーの推進に向けて～取り組みたい環境づくりと対応～」 障がい者サービス研修会
日　　時	令和５年８月 21 日（月） 午前 10 時 30 分から午後３時 30 分まで	令和５年 11 月 20 日（月） 午前 10 時から午後３時まで
対　　象	公共図書館・室職員・県立学校図書関係職員	公共図書館・室職員・県立学校図書関係職員
会　　場	県立図書館２階研修ホール	県立図書館２階研修ホール
内　　容	本県の読書活動推進事業説明：生涯学習課 実践紹介：県立図書館 講義：障がい者サービス 講義：グループ別シミュレーション 「講師のシナリオを基にディスカッション」 講師　元静岡県立こども病院医学図書室 塚田 薫代 氏	実践紹介：「宮崎県立視覚障がい者センターの実践紹介 情報交換：「各館・室の障がい者サービスの現状や課題等について」 講義：障がい者サービス 講師　専修大学教授　野口 武悟 氏
参加者数	91 名	67 名
参加者の感想	○　障がい児や障がい者の図書館利用についてあまり深く考える機会がなかったためよい機会となりました。 ○　普段、学校図書館では経験し得ないケースのお話もありましたが、自己肯定感、ポイントの可視化、ブロークンレコード等学校図書館でも最近対応が求められることが増えている発達障がいやそれが疑われるグレーゾーンの生徒への対応に大変参考になりました。 ○　病気や障がいをもつ人、そしてその家族にも目を向けることが大切だと感じました。病気や障がいに対して、正しく理解すること、気持ちに寄り添うことが、当事者の方の自尊心、人権を守ることに繋がるのだなと思いました。病気や障がいと共に生きる方たちの姿に、勇気をもらえました。	○　具体例を沢山話してくださったので、とてもためになりました。自分のところの図書館だけでは限界があるので、図書館相互、さまざまな機関との連携が大切だと痛感しました。 ○　読書バリアフリーについてその対象も含め広く理解を深めることができました。 一方、法律ができて４年。理解を広げる段階からあまり進展していないようにも思います。県の読書計画を踏まえ実践が広がることを期待します。 ○　実際の視覚障がいの方の困り事や利用の事例が聞けて良かったです。また、視覚障がいに限らず、様々な視点から現在の図書室の活用を考える機会となり、有意義な時間でした。
今年度の成果と課題	○　第１・２回ともアンケートの結果、満足度は 80%を超えており、受講者の理解が深まった。オンラインと対面のハイブリッドで開催したことで、各図書館・室の参加者増を図ることができた。 ●　第１回でオンライン受講者から「音声が聞き取りづらい」との意見が散見されたため、第２回では、マイクの音声信号は直接ＰＣに入力し、改善を図った。	
次年度の方向性	○　次年度も、読書バリアフリー法等障がい者サービスを内容とした研修を実施予定としている。 （今年度から国庫補助事業となり、来年度も国庫補助での実施が見込まれる。） ○　ハイブリッド方式で実施する場合には、音声が聞き取りやすくなるよう、講師のマイクからの音声信号を直接ＰＣに入力する。	

2　読書サポータースキルアップ講習会

令和5年度

読書サポータースキルアップ講習会

開 催 要 項

1 目 的

ボランティアの資質向上を目指した本研修会をとおして、県や各市町村の読書活動推進を支える「読書サポーター」のスキルアップ及び交流を促進する。また、本研修の受講者が研修での成果を、学校図書館や公立図書館、市町村イベント等で発揮する機会を実現する。

2 日 時

令和６年２月 10 日（土）　午前 10 時から正午まで

3 場 所

県立図書館　２階　研修ホール

4 対象者

○　令和２年から令和４年までの読書サポーター養成研修会の受講者

○　読み聞かせボランティアとして活動されている県民

5 日 程

9:30　10:00　10:05　　11:55　12:00

受付	開会	講義・演習 （110 分間　※休息時間含む）	閉会

6 内 容

○　読み聞かせに関する講義・演習

・　読み聞かせの基本について

・　選書の仕方について

・　読書バリアフリーについて

7 その他

○　申込みについては、チラシ裏面のとおり、令和６年２月６日(火)までに Web またはＦＡＸにてお申込みください。

○　その他、詳しい内容や、参加する上での相談がありましたら、県教育庁生涯学習課生涯学習推進担当（電話 0985-26-7244）までお問合せください。

Ⅵ　成果と課題

みやざき
共生社会のまなび

１　成果

（１）体制構築

○　中部地区、南部地区、北部地区の３つに分かれて、それぞれの地域において障がいのある方々の生涯学習推進について展開方策を検討することができた。

○　当事者団体や福祉団体、特別支援学校、社会福祉、教育行政など多様な立場や分野の委員によって連携体制を構築できた。

○　公民館関係者や市町村の公民館担当職員を対象とした公民館経営セミナーにおいて、共生社会を目指した生涯学習の取組について周知することができた。

（２）　実践研究

○　公民館や社会教育施設でのモデル事業として、２市１社会教育施設へ委託して取り組んだことで、公民館講座として実施する際の企画や運営、広報の在り方について研究を深めることができた。

○　大学公開講座は、学生と障がい当事者が一緒に企画運営を行うことで、障がいのある方に寄り添った講座となり、参加者の満足度も非常に高かった。

○　取組推進校として、特別支援学校２校が、在学中に生涯学習を体験する取組を実施して、児童生徒のイメージ作りを行うことができた。

（３）　普及啓発・情報提供

○　今年度の「ひなたのつどい(共生社会コンファレンス)」は、会場参加とオンライン参加でのハイブリッドで開催し、宮崎県出身の著名な歌手による記念トークなどを実施したことで、学生や一般の方など多くの参加があった。

○　車椅子を使用するアナウンサーと著名人がナビゲートとした特別番組は、県内の特色ある取組を県民へ紹介することができた。

○　障がい者の生涯学習を推進するシンボルマークを作成して、市町村の生涯学習推進担当などへ案内し、委託先の事業などで活用することができた。

２　課題

（１）体制構築

○　コンソーシアム連携協議会は参集形式で年間４回実施したが、委員全員が揃って開催することが難しかった。

○　公民館経営セミナーは、市町村公民館講座担当職員の参加が少なく、本事業の意義や連携体制作りなどを十分に伝えることができなかった。

（２）実践研究

○　市町村や社会教育施設、大学へ委託した事業において、各地区の連携協議会委員が協働した取組があったが、連携協議会委員の協働までに至らなかった取組もあった。一方で、コンソーシアムに参画していない障がい者団体が協働した取組もみられた。

（３）普及啓発・情報提供

○　「ひなたのつどい」には、学生や一般参加者など一定数の参加はあったが、全体的には、教育行政や学校関係者などの割合が高く、当事者や福祉などの関係者が少なかった。

３　次年度に向けて

（１）体制構築

○　コンソーシアム連携協議会を引き続き開催し、県内３つの地区で講座やプログラムの展開方策について協議していく。

○　各地区で開催する講座・プログラムについて、連携協議会委員が広報周知だけを行うだけではなく、企画や運営に関わるようにするために、協議会の地区別協議で講座・プログラムの目的や内容等について確認する。

○　市町村公民館の担当職員研修会を実施し、文部科学省のアドバイザーを活用した講話や、令和５年度に実践した２市の実践報告、合理的配慮の説明、県内団体の取組紹介等を行い、市町村で実施するイメージ作りを行う。

（２）実践研究

○　公民館や社会教育施設で障がい者の障がい学習講座をモデルとして実施し、既存講座で講師を務める指導者の起用などにより、講座・プログラムを実施する。

○　大学公開講座では、大学の特性を生かした講座の開催や、学生と当事者が協働する企画運営などで講座・プログラムを実施する。

○　特別支援学校取組推進校において、在学中に生涯学習講座の体験や卒業後の生涯学習のイメージ作りを行う。

（３）普及啓発・情報提供

○　「ひなたのつどい（共生社会コンファレンス）」は、遠隔地からでも参加しやすいハイブリットでの開催や一般県民への周知などについて検討していく。

○　メディアを活用した特別番組、啓発ＣＭは、学生や当事者の企画、参画など、新たな視点を取り込んで、県内の様々な生涯学習の様子や支援団体を県民に広報する。

○　特別番組やひなたのつどいで紹介した団体や文部科学大臣表彰を受賞した団体の情報などを、宮崎県生涯学習課のホームページに記載して周知する。

令和５年度「みやざきの共生社会を目指す生涯学習推進事業」
実施報告書

宮崎県教育庁生涯学習課
〒880－8502　宮崎県宮崎市橘通東１丁目９番10号
TEL　0985－26－7244

みやざき学び応援ネット
新生涯学習総合情報提供システム

https://www.sun.pref.miyazaki.lg.jp/